

発見!



甲賀の自然

～身近な甲賀の自然から、興味深い話題を紹介します～

第8回

初秋の深紅の花 —ヒガンバナ

田んぼのあぜや小川の土手で、かたまって咲くヒガンバナは、里に秋の訪れを告げる花です。花が咲いているときは葉がありません。花が終わると葉が伸びだし、ほかの草が枯れてしまう冬でも細い線形の緑色の葉をひろげ、3月から4月頃に枯れます。夏は土の中で休眠して、秋の来るのを待ちます。花が咲いても種子は実りません。三倍体植物といい、種子ができない植物で球根で増えます。もともと日本にはなかった植物で、いろいろな説がありますが、奈良時代前後に中国から渡来したといわれています。球根にでんぷんが多く、ききんの時に人々を救う植物として栽培されていましたが、毒成分リコリンなどの物質が含まれ、毒抜きが必要でした。田のあぜに植えたのは、イネを荒らすネズミよけといわれ、また僧侶がヒガンバナを仏典にある「赤い花＝曼珠沙華」とみなし、寺院や墓所に植えたことから、人里に増えていったといわれています。

秋の彼岸のころに咲くのでヒガンバナの名がつけましたが、別名マンジュシャゲといえます。ほかにもたくさんの里呼び名をもつ植物で、ドクユリ、ジゴクバナなど不吉な名も少なくなく、この花を嫌う人もいます。



▲ヒガンバナ

最近、稲作の時期が少し早まっていますが、稲の穂が黄金色に色づくころ、あぜや土手に深紅に咲くヒガンバナの花は、里の秋の彩りです。

問い合わせ みなくち子どもの森自然館

☎ 63-6712 ☎ 63-0466

10月の休園日

5日(月)、13日(火)、19日(月)、26日(月)

甲賀市文化協会

連合会文芸欄

甲賀町俳句同好会

北川溪舟選

うすものや女ざかりの早きかな

夏の山緑もやして意気さかん

羅に帯すんなりと茶会の座

夏の山登頂の快感今も尚

のぼり来て心身すがし夏の山

お堀ばた睡蓮の花まつさかり

鹿深句会 桑田 美智子選

膝まずき青梅の数かぞえけり

膨らみて玄関先の青葡萄

釣忍緑の風を揺らしけり

割れ物と宅配届くメロンかな

生垣に這ふのうぜんの花たわわ

変わりなき夫婦の暮し冷奴

甲賀川柳 井上 謹三選

パワーありポパイの腕はほうれん草

細き腕山畑起こすお婆ちゃん

車にも地図ついていて便利だな

祇園さん遠くで太鼓の音がする

私を守る雨傘杖となり

天国地獄ポストの口は一つだけ

増井 竹史

中嶋 てる子

中井 よしの

村長 喜代子

立岡 久女

松島 芳子

山下 美幸

林井 道乃

東 美智代

桑田 美智子

藤縄 よしみ

堀 小夜子

奥山 康雄

瀬古 一郎

藤橋 淑子

桑田 次雄

廣岡 しげの

山下 きよの



甲賀町文化協会